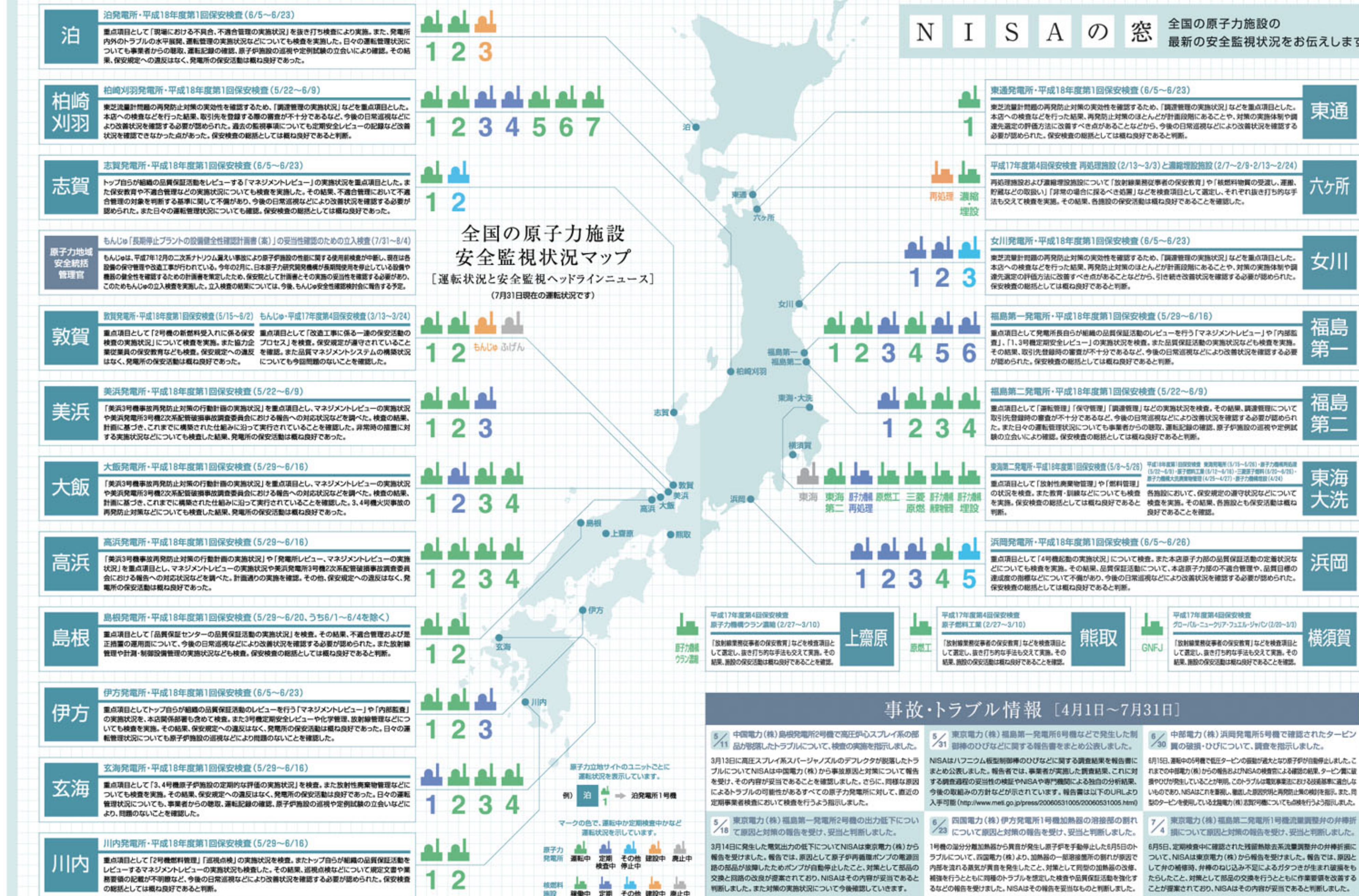


NISAの窓

全国の原子力施設の
最新の安全監視状況をお伝えします。

全国の原子力施設 安全監視状況マップ

〔運転状況と安全監視ヘッドラインニュース〕
(7月31日現在の運転状況です)



事故・トラブル情報 [4月1日～7月31日]

- 5/11 中国電力(株) 島根発電所2号機で高圧炉心スプレイズ系の部品が脱落したトラブルについて、検査の実効性を指示しました。
- 3月13日に高圧スプレイズ系スパーザノズルのデフレクタが脱落したトラブルについてNISAは中国電力(株)から事故原因と対策について報告を受け、その内容が妥当であることを確認しました。さらに、同様の原因によるトラブルの可能性がすべての原子力発電所に対して、直近の定期事業者検査において検査を行うよう指示しました。
- 5/18 東京電力(株) 福島第一発電所2号機の出力低下について原因と対策の報告を受け、妥当と判断しました。
- 3月14日に発生した電気出力の低下についてNISAは東京電力(株)から報告を受けました。報告では、原因として原子炉再循環ポンプの電源回路の部品が故障したためポンプが自動停止したこと、対策として部品の交換と回路の改良が提案されており、NISAはその内容が妥当であると判断しました。また対策の実施状況について今後確認していきます。
- 6/23 四国電力(株) 伊方発電所1号機加熱器の溶接部の割れについて原因と対策の報告を受け、妥当と判断しました。
- 1号機の過分加熱器から貫通が発生し原子炉を自動停止した6月5日のトラブルについて、四国電力(株)より、加熱器の一部溶接部の割れが原因で内部を流れる蒸気が貫通したこと、対策として同型の加熱器の改修、補強を行うとともに同様のトラブルを想定した検査や品質保証活動を強化するなどの報告を受けました。NISAはその報告を妥当なものと判断しました。
- 6/31 東京電力(株) 福島第一発電所6号機などで発生した制御棒のひびきなどに関する報告書をもと公表しました。
- NISAはハフニウム板型制御棒のひびきなどに関する調査結果を報告書にまとめ公表しました。報告書では、事業者が実施した調査結果、これに対する調査過程の妥当性の検証やNISAや専門機関による独自の分析結果、今後の取組みの方針などが示されています。報告書は以下のURLより入手可能(<http://www.meti.go.jp/press/20060531005/20060531005.html>)
- 6/30 中部電力(株) 浜岡発電所5号機で確認されたタービン翼の破損・ひびきについて、調査を指示しました。
- 6月15日、運転中の5号機で低圧タービンの振動が最大となり原子炉が自動停止しました。これまでも中部電力(株)からの報告およびNISAの検査室による確認の結果、タービン翼に破損やひびきが発生していることが判明。このトラブルは電気事業法における技術基準に適合しないものであり、NISAはこれを重視し、直ちに原因究明と再発防止策の検討を指示。また、同型のタービンを使用している大飯電力(株) 2号機についても点検を行うよう指示しました。
- 7/4 東京電力(株) 福島第二発電所1号機流量調整弁の弁棒折損について原因と対策の報告を受け、妥当と判断しました。
- 6月5日、定期検査中に確認された残留熱除去系流量調整弁の弁棒折損について、NISAは東京電力(株)から報告を受けました。報告では、原因として弁の補修時、弁棒のねじ込み不足によるガタつきが生まれ破損をもたらしたこと、対策として部品の交換を行うとともに作業要領を改善することが提案されており、NISAはその内容が妥当であると判断しました。